



地区目標 ロータリーに夢をもって行動しましょう!!

クラブテーマ 想像から行動へ～優しさ溢れる出会い (DEI) のクラブ～

◆点鐘：市村 清勝 会長

◆ロータリーソング：なし

◆司会：

◆完全 Zoom 例会



第2955回例会

令和4年9月12日(月)

## 会長あいさつ

市村 清勝 会長



次回9月26日の例会からは、通常例会を基本にし、どうしても出られない人だけZoom参加をいただくというふうに検討しています。ぜひ皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

今日は、ガリレオ・ガリレイの魅力というのをお話をしたいと思います。

ガリレオ好きの私は、『ガリレオX』を予約をして毎週見えています。先週の『ガリレオX』は太陽の黒点、フレア現象が地球に及ぼす影響を話題にしておりました。ガリレオは、これまでの天動説を覆して地動説を提唱します。ガリレオは1616年に宗教裁判にかけられて、この時のローマ教皇は「今後、地動説を唱えないように」とガリレオに命令して、その彼を自宅軟禁の終身刑にします。でもガリレオは考えを変えることなく、「それでも地球は回っている」と言ったことはあまりにも有名であります。

ガリレオは自由落下の法則も発見しています。紀元前のギリシャ時代のなんでも万能学者アリストテレスは、重いものが軽いものよりも速く落ちると言っていました。「嘘だろ」とガリレオは言ったはずですが。

ピサ大学に行っていたガリレオは、有名なピサの斜塔で実験をします。私もここに登ったことがあるのですが、かなり傾いていて中途半端じゃなく怖いです。そしてガリレオはとても簡単な実験をします。重さの違う2つの鉛玉を落とすだけ。鉛の球を使ったのは、空気抵抗ができるだけ無視できる。そういう比重の重いものを使ったというふうに聞いています。



ガリレオが自作した天体望遠鏡

ガリレオは、何でも自分で経験して、見たものしか信じていませんでした。なんと天体望遠鏡を自作して、月のクレーターやそういうものもスケッチしていますし、太陽の黒点も

見ていたようです。金星の満ち欠けもはっきりしているので地球が回っているということを確認していたみたいです。ガリレオは自分の目で見ています。彼は経験こそが一番の教育者だと言っています。だから終身刑が確定しても、彼は「それでも地球は回っている」とつぶやいて死んでいきます。

1992年、ガリレオの死から350年経ってローマ教皇ヨハネ・パウロ2世はガリレオに謝罪をしました。ヨハネ・パウロ2世、かわいいとこあるね、というお話です。

## 幹事報告

安部 弘行 幹事

- 今年が目玉であります蔵王トドマツ変更例会が延期されておりましたが、10月8日に正式に決定いたしました。ふるっての皆さまの参加をお願いいたします。
- 年次計画書と会員名簿であります。26日の例会で皆さまにお渡しできると思います。
- 11月13日(日曜日)、2800地区の地区大会がございます。会場は荘銀タクト鶴岡になりますので、大型バスを準備したいと思っております。皆さまご参加いただけますようよろしくお願いいたします。
- 9月26日から通常の例会に戻してまいりたいと思っております。26日はおいしい食事を準備したいと思っておりますので、皆さん久しぶりにお会いしましょう。

## 委員会報告

## 職業交流委員会

9月23日の球風会と10月2日の7ロータリーの親善ゴルフコンペの参加申し込みが本日までとなっておりますので、まだの方、申し込んでいない方、忘れている方、よろしく申し上げます。23日の球風会ですが、感染者が減ってはいるもののまだ医療現場のひっ迫等ございますので、懇親会は予定はしていますが、状況によっては中止となる場合がございますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

すでに7ロータリーと球風会の両方にメールで参加の申し込みをしていただいた方で、名前の記載が抜けておる方が1名いらっしゃいました。念のためもう一度ご確認ください。よろしくお願いいたします。



## 移住・定住の現状と今後の展開

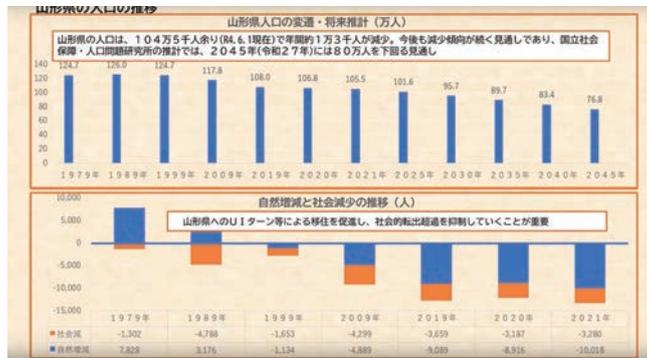
駒林 雅彦 さん

【ふるさと山形移住・定住推進センター 専務理事】

皆さん、こんにちは。山形西ロータリークラブの例会、お呼びいただきまして誠にありがとうございます。早速本県の移住・定住の現状と今後の展開につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、私どものセンターの設立の背景でございます。設立の背景は山形県の人口の減少ということが大きな要因になっているわけでございまして、年々人口が減ってきているのがお分かりになるかと思えます。今現在、令和4年の6月1日現在で104万5千人あまりでございますが、これからまたどんどんと人口が減ってきてまして、2045年には推計では80万人を下回る見通しになっていきます。

人口の減少の要因ですが、青いところが自然減少、そしてオレンジのところは社会減少というふうな状況になっておりますけれども、私どもとしては、やはりこのオレンジの部分、社会減少のところを、いかに移住者を増やして社会的な転出超過を抑制していくことが大事かということを狙ってございまして、それによりまして私どものセンターが設立されたところでございます。



私どものセンターの概要をご説明申し上げますと、今申し上げましたように人口減少が背景にあるわけですが、今までですと県と市町村の両者によって、協議会を作って移住対策を進めてきたわけですが、センターを設立することによりまして、県、市町村、産業界、大学等とオール山形で移住・定住推進を一体的に展開するという目的で設立されたものでございます。

令和2年4月に立ち上げ、2年間事業をしてまいりましたが、移住者はどう変わってきたかという状況でございますが、令和元年、センター設立前の状況は、43組の72名というのが実態でございましたが、これが令和3年度におきましては132組の264名というふうに移住者が増えてきてございます。相談の状況でございます。相談の状況は圧倒的に数が増えてきてまして、昨年度は1,000件を超えるような相談件数になってございまして、この要素というのは何かあるかという、やはりコロナというものがあるんだろうと思っております。コ

ロナに伴う生活様式の変化が、移住検討の要素になっているということが、やはり相談の内容から明らかになってきている況でございます。

移住先の状況につきましては、やっぱり人口の多いところ、いわゆる村山地域が一番多くて、その次に庄内、置賜、最上という順になってございますが、市町村別では鶴岡、山形の順に多くなってございますけれども、鶴岡が多いのは、サイエンスパークに拠点があります企業などへの就職、転職を機に移住されてきている方が多くなっているという状況でございます。

Uターンの方々が6割、Iターンの方々が4割ということで、山形県に知り合いでありますとか、それから生まれが山形とか、そういう方々が多くなっているのが実情でございます。令和2年の4月から3年の10月にかけて移住した方々へのアンケート調査でありますけれども、今回のコロナの感染拡大が移住に影響したのかというアンケートで、影響があったという方が15%、移住を前々から検討していたんだけど今回の感染拡大によって移住時期を早めたという方が3割という状況になっていきます。

私どもの事業につきましてご説明を申し上げたいと思えます。今年度の私どもの目標でございますけれども、3つございまして、センターを通じた県外からの移住者300名以上ということで、昨年度の実績が264名でございますので、それを引き上げていきたいと思っております。

2つ目が、山形に移住して、幸福感を持つ人の割合、これを80%以上にしたいということで、これもアンケート調査をやりまして、昨年度68%と状況でありましたので、これも高めていければなと思っております。

それから3番目に、くらすべ山形の対応満足度につきまして、やっぱり100%にしたいと思っております。この目標を掲げて、6本の柱で事業を展開したいと思っております。

まず1つ目の柱でありますけれども、情報発信の強化です。今まで情報発信もやってきましたけれども、行政的な目線の情報発信だけではなくて、移住者目線、それから住んでいる方々の住民目線、こういう目線で情報を発信していきたいと思っております。昨年度からくらすべ山形移住応援団という方々を募集しておりまして、その方々によって情報発信をしていただいている状況でございます。今年度は、情報発信の強化を行うために、発信方法の実践講座でありますとか、今現在やっているんですけども、グランプリを定めていきたいというようなことで、こういう取り組みによって発信力の強化を図っていきたく思っております。

2つ目の柱が、移住相談コーディネート機能の強化です。通常、メールや電話でありますとか、それからオンラインで相談を受けているわけですが、待ちの姿勢だけでなくいろんなところに出向いて相談をしていければなと思っております。コロナの関係で昨年度まではできなかったわけですが、首都圏の県人会でありますとか、それから大学等での出張相談、移住PRなどもやっていきたいと思えます。

3つ目の柱が、移住希望者とのマッチングの強化で

す。さまざまなイベントを実施して、今年6月にも「オール山形移住・定住推進フォーラム」というイベントを実施しました。先輩移住者の方々から協力いただき、「山形県でこんな暮らしができていますよ」、「こういう支援制度がありますよ」という紹介をさせていただいております。

4つ目の柱が、移住及び関係人口の創出・拡大でございます。これは県の事業と連携したものです。県で特に「ヤマガタ移住・定住大学」なんかも今年度実施しておりますので、そういった取り組みと連携して、いろいろ移住施策の充実を図っていききたいと思います。

5番目が定住・定着の推進。移住したはいいいけれどもまた出ていってしまうという方々も結構いらっしゃいますので、定住・定着をしっかりと進めていくことが大事なと思っております。一番下のところに「やまがた移住ネットワーク」ということで、昨年11月にネットワークを立ち上げていただきました。この移住ネットワークというのは、下の点線のところに書いてございますが、目的といたしましては、移住者の孤立解消と移住者と地域が一体として地域貢献をすること。そしてくらすべ山形の施策への協力というふうなことが目的になってございます。

そういうことで、今までですと移住者の孤立解消のためにいろんなその取り組み、例えば今年も山の日の記念登山なんかもやりましたけれども、移住者同士の取り組みなんかをやってきておりますけれども、さらにグレードアップして、地域の方々と活動するような取り組みを今後進めていきたいというふうに思っているところでございます。

### 5 定住・定着の推進

- ・移住世帯への家賃補助事業の実施。
- ・やまがた暮らし応援カード事業の実施と、協賛店舗への加盟、サービス充実に向けた働きかけの実施。
- ・「やまがた移住者ネットワーク」と連携し、山形県への移住促進や移住後の定住・定着の応援、サポートにつなげていくことを目的とした交流会(「くらすべ山形木育の森」の整備、山の日記念登山など)の開催。

#### やまがた移住者ネットワーク

**【目的】**

- ① 移住者の孤立解消
- ② 移住者と地域が一体として社会貢献
- ③ くらすべ山形の施策への協力(移住者が移住者を呼び込む仕掛け)

会員数：105名(令和4年8月末現在)

活動イメージ(「森林と緑の推進機構」HPより) →

#### 活動例

【くらすべ山形木育の森】整備事業(10月予定)

樹木園の一区画を3年計画で整備し、子供たちに森や木と触れ合う機会を提供する取り組みを通じて、参加者の交流を図ることにより、環境への貢献をはじめ、移住・定住の促進、子育て環境の整備、地域の活性化につなげていく。

6番目の効果的な事業展開でございますが、これにつきましてはいろいろと私どものセンターで事業をやるわけですが、その事業についての評価をやっぱりさせていただく必要があるだろうということで、地域活動の有識者でありますとか、先輩移住者などから私どもの活動についてのご助言をいただきたいということで、懇談会を昨年度から開催しているところでございます。今年度も秋ぐらいに、懇談会を開催してご意見を頂戴してさらにいいものにしていきたいです。

続きまして、今後の移住施策の展開はどう進めていくべきかということでございます。

1つ目でございますが、オール山形での移住者支援をやっていくべきと思っております。まず1つ目が、移

住者ネットワークの取り組みです。このネットワークと地域住民が協力した地域活動へと発展させていくことが大事だろうと思っております。これは10月1日に予定しているんですけども、山形市の長谷堂にあります森林、なかなか整備ができていないところを、住民の方々や移住者のネットワークの方々が一緒になって整備をいたしまして、それで子どもたちに木育の場を提供したいという取り組みを今考えているところでして、ボランティアも募集をしているところです。

### 今後の展開① オール山形での移住者支援

<b>移住者ネットワークと地域住民が協力した地域活動へと発展</b> <small>「くらすべ山形木育の森」整備事業(活動ボランティア募集中)</small> <small>山形市長谷堂のやまがた森林と緑の推進機構敷地内において、地域住民、移住者、学生、山形暮らしに関心がある方々等に参加を呼びかけ、3年計画で植栽、下刈り、枝打ち、間伐のほか、木の名前などを記したプレートやベンチ、テーブルなどの木製品の設置整備を進め、子供たちに自然観察、環境学習、散策などの森や木と触れ合う機会を提供する。</small>	<b>やまがた暮らし応援カード協賛事業所の拡大</b> <small>本県への移住促進と地域全体で移住者受入に対する理解の広がりを目指して、県内の協賛店の協力のもと、利便の割引や優待などの優待が受けられる「やまがた暮らし応援カード」を発行している</small> <small>【協賛店のサービス例】</small> <small>引越補助料、レンタカー料金、賃貸住宅等割引、農業民宿宿泊料金割引、飲食店料金割引・ドリンクサービス、小売店各種サービス等</small> <small>令和4年9月1日現在 65事業所 384店舗</small>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

移住者と地域住民や学生等による森づくり活動(イメージ)





また、今移住してきた人、それからこれから移住を検討している人、そういう方々に対して移住の推進と地域全体で移住者を受け入れていくという理解の広がりを目的とした、「やまがた暮らし応援カード」というものを協賛店さんのご協力で発行しているところです。コロナの関係でご協力が難しかったんですけども、ここにきて一緒になって「支援していこうじゃないか」という動きになってきております。9月1日現在の状況ですけれども、65事業所、384店舗の方々が協力していただくことになりましたので、ぜひロータリークラブの会員の皆さま方からもご協力をしていただければなと思っております。よろしくお申し上げます。

今後の展開の2つ目でございますが、これは移住・定住促進によって、地域課題の解決をしていこうじゃないかということです。1つの例ですけれども、朝日町のりんごというのは品質が良くておいしいということで評判ですけれども、朝日町長さんのお話によりますと、後継ぎ問題があります。それから高齢化の問題もあります。このまま何もしなければ20年後には朝日町のりんごの産地はなくなっていくんじゃないかという危機感を持たれております。そういうことで移住・定住を促進して、なんとかこのりんごの産地を守っていこうという取り組み、地域課題の解決を図っていきたく思っております。この課題解決は我々のセンターも連携として参画させていただいております。今事業計画を練っているところでございます。1つは移住・就農・人材開拓を全国公募して、全国から呼び寄せたいというふうに思っております。また、樹園地の承継の事業ということで、第三者に、今やっているりんご園の承継をぜひ仕組みとしてできたらなというふうに思っております。そういうことでりんご園を受け継ぐだけでなくて技術的なものでありますとか、それから販売先でありますとか、そういった面も含めて承継できるようなそういう仕組みを作ろうというふうなことで今動いているところでございます。

朝日町のりんごだけでなく、さくらんぼにしても、いろんなところで産地がありますけれども、それがこの先本当に維持していけるかということで、真剣にやっぱり検討していかなければいけない時期になっているのかなというふうに思っているところでございます。

今後の展開の3番目でございます。地域ぐるみで移住者を支援していくというふうなことでございますが、1から農業を始めるというのはなかなかハードルが高いと思います。何も経験なし、何も機械もなし、そういう状況の中で山形に来て農業を始めるというのは難しい。やはり農地の確保でありますとか、それから技術的な問題、それから経営的な勉強、集出荷、販売の問題、いろんな問題があります。それから機械を購入したり、住宅を整備したり、アパートに住んで農業をするというのはなかなか難しいと思います。やっぱりいろんな、選果できる場とかがないとできませんし、本県の農業を支える人材確保のために、やっぱり移住者を呼び込んで、行政と地域と一体となって必要な支援を行なっていくということが非常に大事なことかなと思っております。

今後の展開の5番目ということで、個人のライフスタイルや働き方に柔軟に対応できる移住促進ということでございます。これは県内の企業さん、特にいろいろと考えていらっしゃるかなと思いますけれども、専門人材の確保というのがなかなか難しくなっている状況でございます。県内の人だけでは確保できないというふうな状況になってきてございまして、じゃあこれをどういう形で確保していくかということでございますが、右側の展開でございまして、専門人材を副業、あるいは兼業という形で確保いたしまして、テレワークを活用してさまざまなアドバイス等を受けながら企業さんの生産性の向上、付加価値の向上につなげていくということが必要かなというふうに思っております。同時に、兼業・副業の方々や山形県とのかかわりを進展させていくことによって、やっぱり二地域居住につなげていくということが大事なことかなというふうに思っているところでございます。それから、日本一の子育て環境の整備ということで課題として書いてございまして、これは先ほどのアンケートでもありましたようにやはり子育て環境の整備というのは移住に大きな要素になってございます。

ですから、県や市町村が一生懸命になって子育ての支援策を充実させているところでございますが、さらに充実に努めていただいて、他県との差別化をアピールしていくということがやっぱり移住・定住の促進につながることでろうというふうに思っているところでございます。

個人のライフスタイルや働き方に柔軟に対応できる移住促進ということで、ワーケーションの推進ということでここに書かせていただいております。ご案内のとおり、ワーケーションというのはワークとバケーションを合わせた造語でございますけれども、やはり自由度の高い働き方が注目されている状況でございますので、県内での受け入れについては関係人口の増加、それから移住者の増加のきっかけにもなるというふうに思っております。ぜひ受け入れ側としてICT環境、セキュリティ対策と併せまして企業などの利用する側のニーズを把握して、ぜひトライアルイベントなどを通じてPRしていけばどうかと思います。

環境の整備推進ということでございます。これから人口減少が進んできますと、やっぱり空き家問題というのが大きくクローズアップされてくると思います。この空き家対策をどういうふうにしていくのかということが大事なことでございまして、我々のところにも相談にくるのですけれども、やっぱり空き家バンクに登録されている数が少ない状況でございまして、それを物件登録を、それから宅建業者、自治会とも連携しながら増やしていくということが大事なことでろうというふうに思っております。

最後でございますが、これは皆さま方にもお願いしたいことでございます。令和3年の転出超過者数、これが約3,000人くらいいるのですけれども、そのうち女性が多い。男性の1.7倍です。ですから女性の流出を止めることがやはり山形県の発展につながっていくことだというふうに思っております。結婚、出産、子育て支援、これまでやってきたことでございますけれども、これに加えてやっぱり若い女性人材を獲得していくためには従来の仕事のやり方を見直して、女性を惹きつける仕事づくりとキャリア支援というものがやっぱり重要だと思っております。これはやっぱり企業の方にもご協力いただいて、女性を引き止めるような、流出しないような施策を打っていくことが非常に大事なことでろうというふうに思っております。

いろいろとお話させていただきましたけれども、今日お話した内容につきましては、やっぱりオール山形による移住・定住の促進と地域の活性化に向けまして、ぜひ皆さま方のお力をお貸しいただきながら、持続可能な山形県というものを作っていきたいと、発展させていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

今後の展開⑥  
個人のライフスタイルや働き方に柔軟に対応できる移住推進(2)  
～ 日本一の子育て環境の整備 ～

【現状】

- ・移住者のアンケートでは、移住を検討する際に子育て環境の整備充実は、大きな要素となっている。
- ・県や市町村が行う子育て支援策が充実している。(出産・入学祝い、医療費無料化年齢の引き上げ、保育料支援、保育所整備の推進、保育士確保など)
- ・刑法犯検挙率日本一、自然環境が豊か、三世同居率日本一(助け合い、祖父母や地域から字へるものが多い)
- ・子供が室内で遊べる遊戯施設が充実

コバル(山形市)      キッズドームソライ(鶴岡市)      げんキッズ(天童市)

若い世代の移住の促進には、子育て環境の充実が重要。更なる充実に努め、他県との差別化をアピールしていくことが、移住・定住の促進につながる。

本日出席 (9 / 12)	会員総数	出席会員数
	100名	56名(全員 Zoom参加)